

題名 「金武ダムで起きた水質異常について」

北部ダム統合管理事務所 金武ダム管理支所 支所長 新城 晴伸

北部ダム統合管理事務所 金武ダム管理支所 管理係長 照屋 淳

1. 目的

金武ダムを再開発し、本年度4月より供用を開始した金武ダム（旧：億首ダム）において、供用開始直後の4月18日、ダム湖内の魚類が大量にへい死するという水質異常が起きた。この事態に対し北部ダム統合管事務所は、速やかに異常事態に対する体制をとるとともに、原因の究明に向け様々な調査・分析を行ってきたので、今回その取り組み内容及び今後の計画等について報告する。

2. 内容

1) 異常事態に対する体制および関係機関への通知

北部ダム統合管理事務所は、魚の死骸を発見後直ちに水質事故として注意体制を発令し、下流河川への河川維持放流を停止した。また、異常事態について利水者（県企業局、土地改良区）や県中部福祉保健所及び金武町に連絡を行った。また、当事態を広く周知するため、同日夜に記者クラブへの発表を行った。

2) 現場状況の調査

ダム湖内および上・下流河川の巡視を行い、魚類へい死状況を調査するとともに、ダム湖内の水を採水し、「生活環境項目」や「生物異常時調査項目」およびアオコの毒素について分析を行った。

3) 関係機関の対応

県企業局が、ダム湖内の水を採水し、水質の分析を行った。また、県中部福祉保健所は水質の分析のみでなく、魚の死骸の解剖調査も行った。なお、県企業局は、水質の安全が確認できるまで、金武ダムからの取水を停止した。

4) 異常発生後のモニタリングおよび原因の考察

ダム湖内におけるアオコの分布状況、魚の死骸発生状況、水質の定点調査等のモニタリングを行い、今回の水質異常の原因を調査した。

3. 結論

水質の分析結果やモニタリング調査等の結果から、今回ダム湖内で魚が死んだ原因は、アオコの局所的な大量発生による酸素欠乏死であると考えられる。また、今回の水質異常に対する緊急体制（対応）は、水質分析業者や学識者等の協力も得られたことで、概ね初動時から昨日したと考えるが、以下の課題も抽出できた。なお、現状のアオコの状況は、降雨によるダム越流以降、しだいにアオコの分布範囲が少なくなり、それに伴い魚類のへい死は収束した。

4. 今後の予定および課題

- ① 生物へい死時における緊急連絡フローおよび対応事項や役割を明確にする。
- ② 体制発令・体制解除の考え方の整理およびHP公表や記者発表等のタイミングを整理する。
- ③ アオコの増殖を監視する体制の明確化および増殖兆候の状態評価方法を整理する。
- ④ 上記を踏まえ、北部ダム統合管理事務所の危機管理マニュアルを早急に改良する。